

令和5年度学校自己評価結果

<p>本年度の重点目標</p>	<p>①生徒の主体性と責任感を育む教育活動の充実 ②全体指導の徹底と個別対応の充実 ③基礎学力の定着と学力向上を目指す学習指導の充実 ④総合学科での学びを生かした進路希望の実現 ⑤地域に根差した特色ある教育活動の充実 ⑥心身の健康</p>				
項目(担当)	重点目標	具体的方策	達成度	最終評価	次年度への課題 次年度への行動目標
<p>式典 集会 (総務)</p>	<p>体育館にて通常の式典を行う。時季によりH Rでも式典を行えるよう、儀式礼法を心掛ける。</p>	<p>各式典および集会における集合状況・身だしなみその他、T P Oに応じた行動をとれるよう生徒に指導する。</p>	<p>B</p>	<p>体育館での式典や集会を行うことができた。整列隊形を学年ごとのブロック制にし教員の全体指導を促した。</p>	<p>身だしなみ指導を式典の前に組み入れる。先生方に式典・集会時の生徒指導をうながしていきたい。校歌練習を組み入れていく。</p>
<p>P T A活動・外部との連携 (総務)</p>	<p>(1) P T A活動の充実を図るとともに、保護者の学校行事への参加率向上に繋がるよう、さまざまな行事を通じて、保護者相互の連携を強める。 (2) 同窓会・地元地域との連携強化を図り、地域に愛され、誇りとなる学校となるよう努める。 (3) 地域関係諸機関との連携を強化し、地域防災の意識高揚を図る。</p>	<p>P T A行事における保護者の参加状況は良くなったか。また、新規事業により、魅力あるP T A活動を行うことができたか。 P T Aや同窓会との連携を図りながら、地元地域や中学校等への発信を積極的かつ適時に行う。本校のさまざまな活動内容を、より魅力のあるものとして外部に発信できるよう努力する。 生徒自身が防災活動に参加する機会を確保するとともに、校内における防災ポスターの掲示や有事に備えた防災訓練を実施する。また、地域関係諸機関の協力を得て生徒個人が地域に貢献できる行動力を身につける。</p>	<p>A B B</p>	<p>PTAの参加状況はよく、協力して学校行事に参加することができた。人権LTの参加など新しい事業を組み入れた。 PTAや同窓会、地域との連携を図った。部活動「Nanyo Company部」や授業「農業と生活」が出版するイベントに、同窓会長、PTA会長ともに来場し参加していただいた。 防災ポスターを手掛けることができなかったが、地域の関係機関に防災訓練の参加を促し、こども園との連携ができた。</p>	<p>中川青和高校との連携。学校行事参加をPTA役員理事に限らず、全PTA会員に促し、できるところで多くの方に関わってもらえるようにする。 PTA、同窓会、地域の方々との良い関係性を継続していく。 生徒自身が自分事として参加することができるよう、防災訓練の内容を検討していく。</p>
<p>学習指導 (教務)</p>	<p>(1) I C T機器の活用により、生徒の学び直しのための指導時間を創出するとともに主体的・対話的で深い学びを促進する。 (2) 観点別評価による指導と評価の一体化を行う。</p>	<p>動画を活用した授業を行う。また、生徒の学力を把握し、必要に応じた学び直しの指導を行う。 小テストや実習など普段の授業の評価を改善すべき点とともに生徒にフィードバックすることにより学習の調整を促し、生徒の学習意欲を喚起する。</p>	<p>A B</p>	<p>全ての教科で動画を活用した授業を実施した。また、他校の教員への公開授業を実施することができた。 成績不振指導対象者について、1・2年生は減少したが、3年生は微増した。</p>	<p>各教科の実践を共有し、ICT機器を活用したより効率的かつ効果的な指導方法を模索する。 指導と評価の一体化をすすめ、生徒のよい部分を伸ばす指導を促進する。</p>
<p>進路指導 (進路)</p>	<p>(1) 生徒個々の夢や適性を見据え、総合学科での学びを生かした指導体制を確立する。 (2) インターンシップや大学での学びの拡大により、夢を持たせ主体的に将来設計を構築させる。 (3) 資格取得・補習・模試・共通テスト等へ意欲的に取り組ませることにより、粘り強く挑戦する生徒の育成する。 (4) 保護者へ提供する進路情報の充実と教員研修の充実。</p>	<p>近年の入試動向を把握し、進路研修会の内容をより効果的なものにして、本校の進路指導についての共通理解をはかる。 補習・模擬試験等についての情報や将来の重要性の周知を強化し、主体的な参加に結びつける。 保護者会では教育資金に関するパンフレットなどの配布資料の内容を充実させ、必要な情報を発信する。</p>	<p>B B A</p>	<p>大学・専門学校の情報や入試動向、調査書の作成などに対して必要な情報発信は行うことができた。 生徒が主体的に判断して参加できるよう、呼びかけを行った。 保護者会において教育資金に関する資料を複数配布し、必要性の高い情報については提供できた。</p>	<p>教員へ上級学校・企業等の情報の提供を強化し、近年の進学・就職動向の共通理解を推進する。また、新教育課程入試に関する現職研修の実施を検討する。 進学後の基礎学力の重要性を一層周知し、大学進学希望者への模試受験や補習参加の呼びかけを継続する。 保護者会などで提供する情報の充実をはかり、担任の先生方への周知を継続する。</p>
<p>生活指導 (生徒指導)</p>	<p>(1) 将来の社会人、職業人としての規範意識やマナーを徹底指導し、基本的な生活習慣が確立された高い品位、品格と道徳心を持つ生徒の育成。 (2) いじめ防止基本方針に則り、いじめのない安心・安全な学校づくり。 (3) 個に応じた指導の充実。 (4) 交通安全指導の徹底。</p>	<p>生徒観察や心の健康アンケートなどを通じ、生徒の心理変化や環境変化に気づき、早期発見に務め学年・学校全体で即時対応をする。 定期的な点検、登校指導、巡回指導により、制服の正しい着用・清潔な頭髪の維持・装飾品の不着用を徹底させる。 学年及び教育相談との連携を密に図り、個別の事情に配慮した指導を行う。 校内外での啓発活動を充実させ、意識の向上を図る。 集会などの講話で他人を思いやる気持ちの大切さを伝える。</p>	<p>A B A B</p>	<p>心の健康アンケートや面談を通して早期に生徒の変化に気づき、何かあった場合はまず担任が対応し、必要な場合は学年・学校全体で対応した。 身だしなみ指導は、全体に対して一定の効果がある一方で、繰り返し指導をうける生徒もいる。 生徒指導部に学年主任が同席することで、各学年の生徒の状況を把握できた。 薬物乱用防止などの講話を行った。また、集会での生徒指導主事講話等を通して生徒の意識の向上を図った。</p>	<p>心の健康アンケートを引き続き実施することや、保健部との連携を図り、保健室利用が多く人間関係について悩んでいる生徒の早期発見を行うことでいじめを未然に防止していきたい。 身だしなみ指導を繰り返し受ける生徒については、学年と連携して個に応じた指導をしていきたい。 保健室を利用する生徒の中に問題を抱えているものが多いため、保健部との連携を進めていきたい。 飲酒、喫煙に関する指導が多くあった。規範意識を育てると共に、健康被害について伝え、安易に触法行為をしないように指導していきたい。</p>

令和5年度学校自己評価結果

項目(担当)	重点目標	具体的方策	達成度	最終評価	次年度への課題 次年度への行動目標
生徒会活動 (生徒会)	(1)生徒会活動、学校行事、部活動への意欲を高め学業との両立を図る。 (2)生徒会活動を充実し、生徒が自ら意欲的に学校づくりに参画する機会を作る。 (3)地域交流やボランティア活動の推進により自己有用感を醸成する。	メリハリのある部活動をめざし、学習と部活動の両立できる環境を整える。部活動の精選やあり方を見直し、持続可能な部活動運営ができるようにする。	B	所属する生徒数が0に近い部活動について、廃部または募集停止を行い精選することができた。	部活動に所属する生徒数に対して、部活動数が多い。さらに、部活動数を適正数に精選することで、活発な部活動にしていきたい。
		生徒会執行部との連携をしっかりと図り、学校行事を生徒が主体性を持って企画・運営できるように指導・支援する。	A	南陽祭に向けて、積極的に準備し、生徒会として企画を行うことができた。	生徒会執行部の意見を取り入れ、執行部が企画する行事などを増やせるよう指導していきたい。
		実施可能なボランティア活動を検討し、年間を通して計画的に実施していく。	B	校内での募金活動を行った。	募金活動のみではなく、地域に貢献できるボランティアをしていきたい。
学校保健 (保健)	(1)計画的、適切に健康教育を充実させ、保健管理票を活用するとともに、生徒及び教職員の心身の健康が維持されるよう努める。 (2)清掃指導の充実、施設・設備の定期的な安全点検の実施により、清潔で安全な校内外の環境づくりを推進する。 (3)スクールカウンセラー及びスクールソーシャルワーカー等との連携を強化し、支援を必要とする生徒への教育相談体制の充実を図る。 (4)自殺予防啓発指導の充実を図る。	健康診断を適切に行い、事後措置を実施する。また、結果を活用し、職員間で情報共有に努める。	B	昨年度よりも受診勧告後の受診率は増加したが、未受診者も多くなる。年度初めに保健管理票をまとめたものを全職員で情報共有した。	健康診断結果も用いた個別の保健指導を実施し、医療機関につなげる。
		・教員による指導の下、清掃をしっかりと行う。 ・委員会活動を充実させる。 ・毎月、安全点検を実施する。	B	・通常清掃は、今年度から週3回の清掃に変更となった。1度の清掃で回収するごみの量は増えたと感じる。大掃除の取り組みは良好であった。 ・エコ委員については、美化デーやごみの分別活動を行うことができた。 ・安全点検については、一部の教員で期限内に実施できていない状況が続いている。	・通常清掃の頻度が減り、実施日の清掃をより丁寧に行うように教職員へ依頼していく。 ・美化デーを有効に活用して、校内美化を図っていく。 ・安全点検の毎月の確実な実施を定着させていく。
		・相談支援体制を充実させ、早期対応・専門職との連携を図る。 ・自殺予防啓発体制を整備する。	A	相談係が学年一人になったこと、SSWが代わり相談がしやすくなったことで相談体制が充実してきた。	相談を希望する生徒は多い。さらに教員間、外部機関と連携を取り生徒のニーズに対応したい。
総合学科 (推進)	(1)本校の教育内容を、より多くの人に知ってもらえるよう、効果的な広報活動を行う。 (2)「キャリア探求Ⅰ～Ⅲ」のより効果的な指導を探る。 (3)生徒が主体的に活動できる教育活動が実施できるよう提案を行う。	学校を紹介する場面を増やすことや、SNSを活用し、学校生活の様子を発信する。	B	Instagramを活用し、多くの教員に声掛けを行ったり、総合の時間では必ず投稿するように依頼し、投稿数を増やした。	事前に投稿することは承知していたが、生徒が納得をする映り方かどうかまで了解をとる作業が必要となることがある。掲載する際に注意していきたい。
		企業と連携し問題解決学習に取り組む、探究活動を発表する場を設ける。	A	2年では企業と連携し、様々な活動を行うことができた。	各学年での満足度がさらに上がるよう計画していく。
		総合学科発表会の充実。	B	1・2年生の教室へ発表をしに行く形式をとり、発表回数を増やし3年生全員が発表に係らせることで、系列別探究の充実を図った。	発表の時間も運営の時間も足りないため、来年度の日程を工夫をしたい。
地域連携 (教頭等)	地域に根差した特色ある教育活動の充実	総合学科としての特色ある授業や部活動で地域や企業と連携しながら、生徒の成長を促す。またその様子を地域に発信する。	A	授業や部活動で、地域や企業と積極的に連携した取り組みができ、その都度情報の発信ができた。新規の企業との連携も入った。	連携事業の数が増えると、週休日に教員が活動する日が増えてしまうため、連携先を精選することは必要になってくる。また、長期休業中や午前授業の時など、平日の勤務時間に動けるような取り組みを模索していきたい。
心身の健康	(1)長時間労働の是正に向けた在職時間管理の適正化 (2)業務改善に向けた取組	(1)勤務時間内に業務を終了するための意識を高め、職員室施錠時間を適正に管理する。 (2)会議資料の削減等、継続的に業務の見直しを行う。	B	時間外勤務が80時間を超える人数は11月終了時点では、昨年度と変わらなかったが、在職時間の平均値は昨年度よりも約4時間短縮された。	限られた時間の中で、効率的に業務を遂行する意識がまだ浸透していないため、引き続き意識改革に努める。また、業務量が多いという人については、適切に業務が分担されるよう分掌とも調整していきたい。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		教頭等：多忙化解消への取組、総務：式典、教務：学習評価 進路指導：進学・就職指導、生徒指導：個に応じた指導、保健：相談支援体制 生徒会：部活動の充実、推進：探究活動の推進			